

Vigor

三田西陵高等学校 26 回生 第 3 学年 発行
No. 33 令和 3 年 3 月 1 日

学年主任 有馬 秀明先生からのメッセージ 『輝け！未来へ！！』

26 回生の皆さん、卒業おめでとう！今でも、桜満開のもと入学してきた初々しい姿が目に残っています。その諸君が、もう巣立ちの時期を迎えることを思えば、ほんとうに感慨深いものがあります。

振り返れば、この 3 年間のさまざまな思い出が走馬燈のように浮かびあがってきます。オリエンテーション合宿での緊張した姿、2 年生までの西陵祭や遠足で見せてくれた笑顔、修学旅行を満喫しつつ楽しんでくれている姿など、きりがなく思い出されてきます。そして何よりも、それぞれがたくましく成長していく姿を見せてくれたことに喜びを感じています。最終学年は、コロナ禍に振りまわされてしまいましたが、よく踏ん張るとともに、頑張ってきたと思っています。

さて、この春から、それぞれの新しい道に進むわけですが、自分への投資を惜しまないで欲しいと願っています。皆、個性があり長所があり、違った良き能力を兼ね備えています。しかしながら、宝の持ち腐れではいけません。それらを磨いて輝かすことが大事です。また、「良薬は口に苦し」「若い時の苦労は買ってでもせよ」等は、よく言ったものです。ややもすれば、自分の価値観と合わなければ受け入れない、興味関心がなければ見向きもしない場面が見受けられました。しかし、そのような中にこそ、自分自身を鍛えてくれて成長に繋がることがあるかもしれません。自分の好きなことばかりしか取り組まないのはもったいないです。自分自身を磨き光り輝かせるためにも、食わず嫌いを無くすとともに、小さな努力を惜しまないことです。

さあ、皆さんの新しい旅立ちです。時には厳しい現実打ちのめされるかもしれませんが、夢は諦めないでください。その試練を乗り越えて、熱く生き抜いてください。つらい時や苦しい時があるかもしれませんが、野に育つ花の如く力強く生きていきましょう！己の人生です。悔やまないように、自分らしく輝き続けてください。

最後になりましたが、皆さんの未来に幸あることを心から願っています。



学年付 藤井 克法先生からのメッセージ

『卒業生の皆さんへ』

26 回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは漸く、高校生活のゴールにたどり着くことができました。しかし、それは同時に、これから始まる新たな人生へのスタートでもあります。今まで皆さんは、ほぼ同じゴールを目指してきたと思いますが、これからの人生は一人一人、目指す目的地がまったく違ってくることでしょう。高校卒業後の道を探して、大いに悩んだ人もいたことでしょう。「自分で選んだ道である以上は、自分しか歩むことができない。自分だからこそ歩むことができる」。このことを忘れないで下さい。皆さんが自分の選んだ道を着々と歩んでいくことを心より願っています。



1 組担任 中西 徹先生からのメッセージ

『中西徹のとおきのお話』

私は小学校 4 年生から高校 3 年生までサッカー部に所属していました。その話を書きたいと思います。

私は淡路島で生まれ育ちました。当時私が通っていた小学校は 6 学年で 100 人ちょっと、私の学年は男子 10 人でした。下の学年に至っては男女合わせて 9 人しかいませんでした。

(ちなみにその小学校は統廃合の結果、校舎は現在使われていません。) その学校では、小学 4 年生になると男子はサッカーするものと決まっていました。例に漏れず、私も 4 年生になるとサッカーを始めました。その頃の私はぽっちゃり体型で、身体が固く、足も遅い。その上、気が小さかったので人にもボールにもビビってばかりでした。そのため、サッカーが楽しいと思ったことはありませんでした。

中学入学時は他の部活動に入ることも考えましたが、同じ小学校の他の 9 人がサッカー部に入ったので、自分だけ他の部活に入る勇気もなく、結局そのまま中学でもサッカーを続けました。そして、高校入学時も中学と同じ理由でサッカー部に所属しました。

結局、高校三年の最後の試合、総体 1 回戦でチームが敗退しチームメイトが泣いているとき、私の目から涙が流れることはありませんでした。

その後は受験勉強に没頭し、大学入試を終えて卒業を迎えました。卒業式の日、卒業文集を読んでいると、チームメイトのページに次のようなコメントがありました。



「徹が頑張っているから、俺も負けずにサッカーを頑張れた。ありがとう。」

それは卒業文集に記載されているだけで、そのチームメイトが私に直接言葉をかけることはありませんでした。私も恥かしくて、その話題に触れたことはありません。

高校までサッカーをやってきて、「サッカーが好きだ。」と思ったことはありませんでした。レギュラーとして公式戦に出場することはなく、途中出場すれば足を引っ張ることばかりだった気がします。しかし、体力・長距離走だけは自信を持てるようになっていました。そのため、トレーニングだけは絶対に手を抜きませんでした。トレーニングはしんどいですが、部活動の中で唯一自分の存在意義を見出せるものだったので、しんどい中にも充実感がありました。

自分のプライドを守るために「トレーニングだけは絶対に負けない。」と思っていました。「チームのために少しでも自分が出来ること」そんなものではありませんが、自分の頑張りがチームのためになっていたことに、チームメイトが気付かせてくれました。その言葉は私の大切な財産です。

この経験から私が学んだことは 3 つ。1 つ目は、嫌だと逃げているときは何も変わらないということ。そのものに向き合って「どうすれば良くなるか」に目を向けてないから。2 つ目は、努力することは無駄ではない。必ず自分の財産になり、その姿は絶対に誰かが見ていてくれる。また、誰かに勇気を与えることができるということ。3 つ目は、人が頑張っている姿に気付ける人になるという目標が持てたこと。

私のとおきのお話でした。26 回生の皆さん、卒業おめでとう。そして、ありがとう。

2 組担任 津田 悠希先生からのメッセージ

『卒業する皆さんへ』

26 回生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは今日、三田西陵高校を卒業し「自立」した大人として社会に出ていきます。

「自立」と聞いて誰も頼らない事だなんて思っていないか？ そんなことはありません。たくさん人に頼ってください。人に頼らず生きていくなんて、今の社会において不可能なことです。そもそも自立は一人では成し遂げられるものではありません。大事なのは「甘える」のではなく「頼る」ことです。

自立を支えてくれるのは家族、友人、先輩後輩、先生、仕事仲間、もしかしたら事情を知らない遠い人かもしれない。そんな人たちに支えら



れて、これから皆さんは自立していきます。「出来ないことは出来ない」と自分の能力の限界を認め、伝えるところから自立は始まります。かっこ悪くて当たり前。最初は何でも泥臭いもんです。そして誰かが頼ってきたら、真剣に応えてください。そうやってみんなで協力し合っていきましょう。

3組担任 高寺 智晴先生からのメッセージ

『楽しく生きる』

26 回生の皆さん、卒業おめでとう。とうとうこの日がやってきてしまいました。出会いがあれば必ず別れがありますね。3 年間過ごした仲間との別れは本当に寂しいと思います。しかし、皆さんはこれからもっともっとたくさんの人と出会うことになります。普段では絶対に出会えないような人と付き合い、全く違った人生を歩んでいる人と出会い、異次元で考えられないような生活をしている人と付き合い。そんな出会いを自らつくり、人生を変えていってほしいと思います。

明日からは、誰かにとやかく言われたり、寝坊したり忘れものをしたりしても叱ってくれる人はいません。自分自身の行動に責任を持たなければいけません。だからこそ、自分で楽しさを見いだせるようになってほしいと思います。大人になれば、他人の悪口や不平不満を言う人がたくさん現れます。「～のせいでおもしろくない」「～が〇〇だからつまらない」など、よく考えてみればそれは「人のせい」だということに気づくと思います。こんなことで人生を終えるのはもったいなすぎと思いませんか？ これから「本当の楽しさ」を自ら追求していかないといけません。また皆さんに出会える日にはお互い「おもしろいことやってるやん」と言えるよう、共にがんばっていきましょう！では。



4組担任 吉田 圭介先生からのメッセージ

『卒業にむけて』

26 回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私が三田西陵高校に赴任してきたのは、皆さんが2年生の時だったので、2年間皆さんの姿を見させてもらいました。

当初は「おとなしいなあ」という印象でしたが、徐々に持ち前の明るさが見え始め、今は「元気だなあ」という印象に変わりました。ですが、今まで関わりを持った高校生と比べると、本当に手のかからない生徒だったというのが一番の印象です。一度言えばほとんどの生徒が耳を傾けて行動してくれるし、特に目立った悪さをする事もなくだったので、実

際、本当に楽しかせてもらいました。ありがとうございます。

卒業と聞くと、別れの季節というイメージがあります。今までのように友人と毎日顔を合わすこともなくなり、仲が良くて半年に1回くらいのペースでしか会えなくなることもあります。場合によっては今後一生会うこともない人もいることでしょう。私も高校・大学と卒業しましたが、卒業してから1度も会っていない人がたくさんいます。この歳になって高校時代の付き合いというのも10人いるかどうかぐらいです。人との関わりはそのようなものだと思います。その分、新たな出会いがあるので、いいんじゃない、と思える日が来るといいですね。

最後に、充実した楽しい人生を送ってください。楽しい人生というのは、目先の快樂ばかりを求める人生ではありません。努力しないと、その分楽しい充実した人生は送れません。その努力がかなり辛いのですが、それを乗り越えてください。「今幸せだなあ」と28歳ぐらいに思える人生だったらいいですね。



5組担任 西村 摩美先生からのメッセージ

『卒業に寄せて』

卒業の日をむかえて、解放感に浸る人もいれば、友達とは別々の新しい生活が始まることに不安を感じる人もいます。振り返ると様々な場面で周囲の人から支えられていたことに気づくのではないのでしょうか。「高校」や「高校生」という枠の中で、何か(誰か)に守られ、支えられていたはずで。今は分からなかったとしてもずいぶん時が経ってから、周囲からの大きな支援があったことに気づくこともあると思います。

4月から「新社会人」や「新入生」として新しい生活が始まります。これから先も、周りの人から手を差し伸べられ、助けてもらう場面が何度もあると思います。人に助けてもらうことなしに生きていくことはきっとできないでしょう。私たちは知らず知らずのうちに誰かに助けてもらっているはずですし、誰かを助けています。

誰かに助けてもらった時、その人に感謝の気持ちを伝えたり、恩返しができれば素敵なことです。でも、返しができないほどの親切を受けたり、今自分に余裕がなくて恩返しできないこともあるかもしれません。どうしようもない状況に陥ったとき、誰かに頼り助けを求めることは誰にだってあることです。周囲に助けてもらったり支えてもらった分、自分を磨いて成長して、そしていつか返せる時がきたら、返せる人にあなたができる事をしてあげたい。あなたに手を差し伸べてくれた人にでなく



ても、自分が助けてもらった分を誰か別の人に渡す。そういう恩返しの仕方もあると思いませんか？



6組担任 岡 諒介先生からのメッセージ

『目の前の文章から逃げたはいけない』

実は大学4年間、古代ギリシア語の勉強をしていた。一つの単語で何十種類にも変化する古代ギリシア語は、たった一行訳だけでも数時間かかることもあり、想像を絶するほど難しい言語だった。もうこんな言語をやめてしまおうと思った時、教授は耳にたこができるくらい「分からないからといって目の前の文章から遠ざかると、答えはもっと遠のきます。分からないからこそ、目の前の文章と向き合いなさい。」と仰り続けた。

あんなにしんどい思いをして4年間学び続けた古代ギリシア語を、社会人になってから使ったことは一度もない。だけど、古代ギリシア語の勉強で体にしみついた「目の前の文章から逃げたはいけない」という考え方は、国語教師として難解な文章に出会った時の自分の根幹となった。そしてその考え方は、今では自分の人生の中で苦しいと思う時、逃げ出したいと思う時、大切な選択をする時の心の指針になっている。

高校3年間お疲れ様でした。学校は確かに知識としての教養を高める場ではあるけれど、その知識を活用する人生かどうかは人によって違います。だけど高校を卒業する意味というのは、定期考査に向けて勉強をした時、友達と喧嘩をしてしまった時、先生に指導をしてもらった時、行事に向けて頑張った時、それぞれの時の中で感じ学んだことを、これからの自分の人生の指針にすることなのではないのでしょうか。卒業、本当におめでとう。皆と3年間過ごせて幸せでした。ありがとうございます。

26 回生

祝 卒業